

新規就農を促進するキュウリおよびトマトの省力化技術の確立

○実施期間：令和8～12年度

○担当部署：野菜部

○区分：プロジェクト（食料確保・生産力向上プロジェクト）

○研究内容

冬春キュウリと冬春トマトは主要品目であるが生産量が減少しつつあり、対策が必要です。これまでキュウリでは、新規就農を支援するために年2作型の養液栽培による高収量栽培技術を確立しましたが、昨今の労働力不足の情勢の中、収量を維持しつつ省力化も可能な栽培技術が求められています。トマトでは、独立ポット耕による新規就農者が増えていますが、点滴チューブの目詰まりなど給液トラブルによる作業負担の増加が問題となっています。そこで、キュウリでは、年1作体系の確立、収穫時間を短縮できる摘葉技術の確立、給液管理の自動化に、トマトでは、連続栽培槽ベンチの開発、目詰まりを防ぐ給液管理技術の確立に取り組めます。

○背景・課題

現状：県内の冬春キュウリ、冬春トマトの栽培面積、生産量はいずれも減少傾向

⇒ 新規就農を促進し、生産量を増やすために

これまでに開発した高収量栽培技術 **+** **労働力不足を補う省力化技術**が必須

○研究内容

冬春キュウリ

- ・年2作型と同程度の収量が得られる年1作型栽培体系の確立
→ 植え替え作業省力、苗コスト半減、12～1月収穫可能
- ・収量を維持したうえで収穫時間を短縮できる摘葉技術の確立
→ 摘葉により果実識別を高め、収穫時間の短縮
- ・給液制御等の自動化技術の検証
→ 自動給液制御による作業負担の軽減、日射比例灌水による収量増加

冬春トマト

- ・連続栽培槽ベンチの開発
→ 点滴チューブ目詰まり時の影響軽減、培土交換時間の削減
- ・給液管理技術（低pH給液等）の確立
→ 点滴チューブの目詰まり発生防止